

# 信濃川水系河川整備計画骨子（概要版）

## 項目

## 整備計画目標

## 工事に関する事項

## 維持管理に関する事項

洪水による災害の発生防止又は軽減

流水の適正な利用及び正常な機能の維持

河川環境の整備と保全

**【災害発生の防止又は軽減】**  
 水系一貫となって災害防止・被害最小化を図る観点から、上下流、本支川バランスを確保し、県境区間や支・派川等については関係する河川管理者と連携を図りつつ水系全体として段階的かつ着実に治水安全度の向上を図ります。  
 河川整備にあたっては、平成16年、同18年及び同23年など、近年多発する洪水実績を踏まえ、戦後最大洪水と概ね同規模の流量を安全に流下させることを目標とします。  
 また、内水による浸水被害の恐れのある地域においては、関係機関と連携・調整を図りつつ、内水被害の軽減を図ります。  
 さらに、計画高水位等を超える洪水が発生することを想定して、二線堤等既存構造物を活用した氾濫被害の軽減対策や、新たな洪水対策の検討を進めます。

**【河川管理施設の適切な維持管理】**  
 堤防、洪水調節施設、堰、水門、排水機場等の河川管理施設が、洪水時に確実に機能を発揮できるよう、平常時及び洪水時、地震時における巡視、点検をきめ細かく行います。また、河川管理上の重点箇所や維持管理の内容を定めた計画を策定するとともに、河川の状態変化の監視、状態の評価、評価結果に基づく改善を一連のサイクルとした「サイクル型河川管理」により効率的・効果的な維持管理を行います。  
 また、堤防の耐震対策や堰、水門、排水機場等の耐震補強を進めるとともに、計画規模を上回る洪水時や津波発生時においても安全に操作できる対策を進めます。

**【水防、避難に資する適切な情報提供等】**  
 水防関係機関に対して、洪水予報や水防警報等の情報を迅速かつ確実に伝達するとともに、地域住民に対して、避難行動を促すための有効で分かりやすい情報が提供できるよう、情報提供の改善や情報伝達手段の拡充を図ります。  
 また、災害時の水防活動や応急復旧活動を円滑に実施するため、活動の拠点となる防災ステーション等の整備や広域・大規模な水防活動時の支援体制整備など、流域連携による危機管理体制の強化や地域防災活動の支援を推進します。  
 さらに、流域全体の住民が上中下流における水害リスク等の情報を共有し、避難等のソフト対策が確実に行われるよう、防災教育やソフト対策の推進を担う人材育成に取り組みます。

**【流水の正常な機能の維持】**  
 利水、動植物の生息・生育・繁殖環境、景観、流水の清潔（水質）の保持等、河川の流水が本来有する機能が維持されるように努めます。また、渇水等の被害を最小限に抑えるため、関係機関と連携しつつ、渇水調整や節水の啓発、効率的な水利用の支援に努めます。

**【良好な水質の維持】**  
 継続的な水質モニタリング及び関係機関との連携により、良好な水質の維持を図ります。

**【健全な水循環系の確保】**  
 流域全体の健全な水循環系の構築を目指し、流域の水利用の合理化等を関係機関や地域住民と連携しながら流域一体となった取り組みを図ります。

**【河川環境の保全及び生物の生息・生育・繁殖地保全】**  
 河川整備の実施にあたっては、施工形状や方法を工夫することにより、湿地やワンド等の多様な生物が生息できる環境が作られるように配慮します。  
 また河川の自然環境を保全し、動植物それぞれの生活史が全うできるように、生息・生育・繁殖地の場としての瀬・淵やワンド、河岸、河畔林等の保全及び魚類が河川の上下流や本支川等往来が可能となる水域連続性の確保など、魚がのぼりやすい川づくりを行います。

**【良好な景観の維持・形成】**  
 流域の自然景観や、沿川のまちなみと調和した河川景観の保全・創出を図ります。河川整備の際には、景観に配慮した工法を採用するなど、良好な河川景観の保全に努めます。

**【人と河川との豊かなふれあいの確保】**  
 上下流における相互理解を深めつつ、流域住民とともに地域づくりと一体となった川づくりを目指します。  
 流域の個性や活力、歴史・文化・風土が実感できる川づくりを目指すため、河川とのふれあいの場、環境学習ができる場・憩いの場としての整備・保全を図ります。  
 整備にあたっては、関係機関や市民団体と連携するとともに、イベントや環境学習を通じた情報の発信も行い、魅力ある川づくりに多くの人が参画できるよう推進します。

**【河川空間の適正な利用と保全】**  
 河川敷地の占用及び工作物の設置、管理については、施設の管理者に対し、維持管理や洪水時対応を適切に行うよう指導するとともに、動植物の生息・生育・繁殖環境の保全、景観の保全に十分配慮するよう、申請者に対して指導、助言を行います。  
 また、不法係留船、ゴミの不法投棄等の解消に向けた取り組みや、住民参加の河川管理を推進する取り組み等を推進します。

<洪水の安全な流下対策>  
 ○堤防整備  
 ○河道掘削  
 ○大河津分水路の改修  
 ○既設ダムの有効活用  
 ○遊水機能の保全・向上  
 ○霞堤の機能維持・保全  
 ○横断工作物の改築  
 <内水対策>

<河川管理施設の強化>  
 ○大規模地震への対応（耐震対策）  
 ○堤防の質的整備  
 ○水衝部対策  
 ○支川合流点処理  
 ○機能低下した構造物の改築

<計画高水位等を超える洪水を踏まえた流域連携による治水対策>  
 ○氾濫区域内の水害リスクの軽減  
 ○水防、避難に資する適切な情報提供等

<適正な流水管理>  
 <流域の水利用の合理化>

<河川環境の整備と保全>  
 ○多自然川づくりの推進  
 ○工事による環境影響の軽減等  
 ○魚がのぼりやすい川づくりの推進

<良好な景観の維持・形成>

<ふれあいの場の整備>

<河川の調査、状態把握>  
 <河川管理施設等の点検・維持管理>  
 <河道の維持管理>  
 ○高水敷確保による堤防防護  
 ○維持掘削  
 ○適切な樹木管理  
 ○砂利採取の規制  
 ○地域と連携した河川管理の推進  
 <ダムの適正管理・運用>  
 <大規模地震発生後の対応>

<流水の正常な機能の維持>  
 ○健全な水循環系の確保  
 ○渇水対策  
 ○水質の保全・改善  
 ○水質事故時の対応

<河川の調査、状態把握>  
 <河道の維持管理>

<人と川との関わりの構築>  
 ○川に関する歴史・文化の伝承  
 ○環境教育への支援

<河川空間の適正な利用の推進>  
 ○適正な利用の促進  
 ○不法占用・不法行為の防止・解消

### サイクル型維持管理の実施

信濃川の河川特性を十分に踏まえ、「災害の発生防止」、「流水の正常な機能の維持」、「河川環境の整備と保全」、「河川の適正な利用」等の観点から洪水時や渇水時だけでなく平常時から信濃川の有する機能が十分に発揮できるように、河川の状態の変化の監視、評価結果に基づく改善を一連のサイクルとした「サイクル型河川管理」によって効率的・効果的に管理を実施します。

※本資料は、信濃川水系河川整備計画骨子のうち、河川整備計画の目標に関する事項及び河川の整備の実施に関する事項をまとめた概要版です。